

ワークシートを使用される先生方へ

- 1 このワークシートは「日本の武器・武具」の展示コーナーに即して作成しました。展示品及び解説パネルを見て答えられるようになっています。  
なお、天文コーナーに関する問題はありません。
- 2 少し細かい部分もありますが、展示の解説をよく見て答えてください。
- 3 生徒同士で相談したり話し合ったりする場面はありません。
- 4 展示ケース等には触れないよう注意してください。振動が加わると警報が鳴ってしまいます。

※ 解答入りのシートの後に解答なしのシートがあります。

## 日本の武器・武具を知ろう！

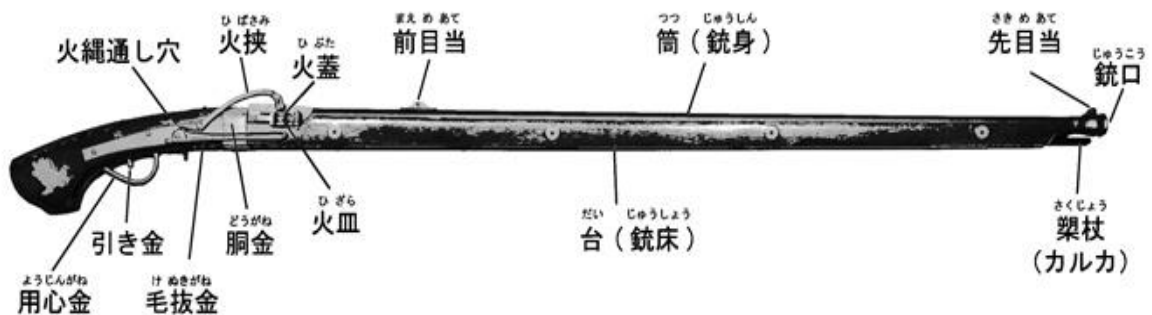
中学校 年 組 氏名

### 1 火縄銃（鉄砲）

(1) 日本に鉄砲を伝えたのは、1543年に< 種子島 >にやってきたポルトガル人だといわれています。 <パネルの解説文>

(2) 次の文は火縄銃の打ち方の説明です。パネルに書かれた説明文を見て、文中の空欄(ア)～(カ)にあてはまる銃の部位を、下の語群から選んで書きましょう。

- ① 火薬と弾丸を(ア) 銃口 から入れる。
- ② (イ) 槌杖 と呼ばれる木の棒で(ア)から火薬と弾丸を押し込む。
- ③ (ウ) 火皿 に口薬と呼ばれる火薬をのせる。
- ④ (エ) 火蓋 を閉じて(ウ)を保護する。  
火のついた火縄を(オ) 火挟み に装着し、構える。
- ⑤ (エ)を切り(開け)、(カ) 引き金 を引く。



火挟み 銃口 火蓋 火皿 引き金 槌杖(カルカ)

※「大きな大会の初戦」や「最後の一番」が始まったときなど、実況で使われる『～の火蓋が切って落とされました!』の語源がこの「火蓋」です。

(3) 1575年に織田・徳川の連合軍と武田軍が戦った< 長篠 の戦い>は、鉄砲を使った戦いとして有名です。 <パネルの解説文>

### 2 日本刀

(1) 日本刀の分類で「太刀」と「刀」はどう違うのでしょうか？ それぞれの文の空欄をうめましょう。 <パネル:日本刀の分類>

太刀：刃長2尺以上で、刃を( 下 )にして( 腰に 下げる )形式のもの  
刀：刃長2尺以上で、刃を( 上 )にして( 腰に 差す )形式のもの

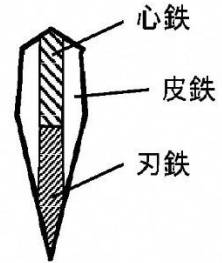
(2) 当館に展示されている日本刀の多くは、反りがある「彎刀(わんとう)」です。反りのない「直刀」が「突く、刺す」のに適しているのに対して、彎刀はどういう使い方に適しているのでしょうか? <パネルの解説文>

斬(きる)

(3) 次の文は日本刀の作り方の説明です。解説パネルに書かれた説明を見て文中の空欄(ア)～(カ)にあてはまる語句を下の語群から選んで書きましょう。

- ① 刀の材料のうち炭素量が少なくてやわらかい(ア) 心金 を、炭素量が多くてかたい(イ) 皮金 でくるむことで、折れず、曲がらず、よく切れる刀ができる。
- ② 何度も折り返しながら、交互に槌で叩いて(ウ) 鍛錬 することで、不純物をたたき出す。
- ③ その後刃金を取りつけてから、丹念に(エ) 研ぎ をくりかえすことによって、(オ) 地金 の模様や、美しい(カ) 刃文 があらわれる。

鍛錬      研ぎ      刃文      心金      皮金      地金



※ 心金=心鉄、皮金=皮鉄、刃金=刃鉄 です。  
 ※ ②の作業からできた慣用句が『相槌を打つ』です。  
 「はい、はい」「うん、うん」… 雰囲気伝わりますね。

(4) 作り方説明パネルの最後に「このような日本刀製作の優れた技術は、武器としての必要性がなくなった今日においても大切に受け継がれています。」と書かれています。なぜ受け継がれていくのでしょうか? 理由を考えてみましょう。

.....

.....

.....

.....

### 3 甲冑(鎧)

右の資料は展示されている「大鎧(おおよろい)」です。

次の①～⑤の2つの文のどちらかで、大鎧について正しく述べている方の( )内に○を記入しましょう。 <パネルの解説文>

- ① ( ) 着脱は簡単にできるよう背中で止めるだけでよい。  
 誰かに手伝ってもらわないと着脱できないほど大変。
- ②  騎馬武者用に騎馬戦を想定して作られている。  
 歩兵用に地上戦を想定して作られている。
- ③  刀や槍での攻防に適している。  
 弓矢での攻防に適している。
- ④  見た目と違って軽く、動きやすい。  
 大変重くて、動きにくい。
- ⑤  主に平安時代～鎌倉時代に使われた  
 主に戦国時代～江戸時代に使われた



## 日本の武器・武具を知ろう！

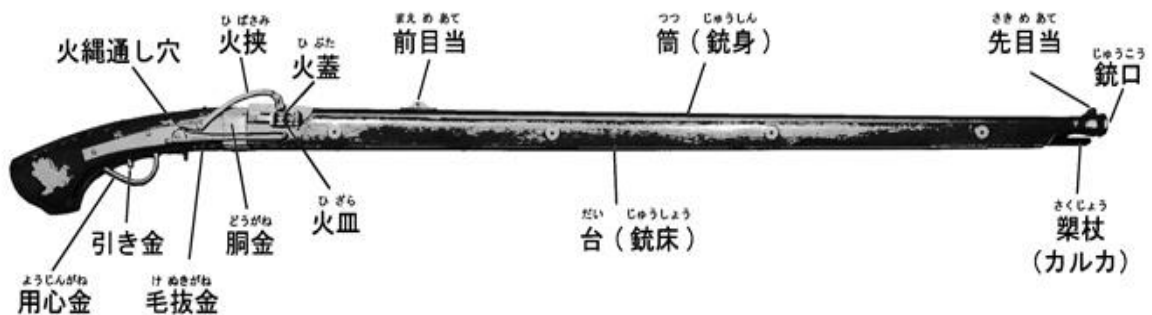
中学校 年 組 氏名

### 1 火縄銃（鉄砲）

(1) 日本に鉄砲を伝えたのは、1543年に< >にやってきたポルトガル人だといわれています。 <パネルの解説文>

(2) 次の文は火縄銃の打ち方の説明です。パネルに書かれた説明文を見て、文中の空欄(ア)～(カ)にあてはまる銃の部位を、下の語群から選んで書きましょう。

- ① 火薬と弾丸を(ア) から入れる。
- ② (イ) と呼ばれる木の棒で(ア) から火薬と弾丸を押し込む。
- ③ (ウ) に口薬と呼ばれる火薬をのせる。
- ④ (エ) を閉じて(ウ) を保護する。  
火のついた火縄を(オ) に装着し、構える。
- ⑤ (エ) を切り(開け)、(カ) を引く。



火挟み 銃口 火蓋 火皿 引き金 架杖(カルカ)

※「大きな大会の初戦」や「最後の一番」が始まったときなど、実況で使われる『～の火蓋が切って落とされました！』の語源がこの「火蓋」です。

(3) 1575年に織田・徳川の連合軍と武田軍が戦った< >の戦いは、鉄砲を使った戦いとして有名です。 <パネルの解説文>

### 2 日本刀

(1) 日本刀の分類で「太刀」と「刀」はどう違うのでしょうか？ それぞれの文の空欄をうめましょう。 <パネル:日本刀の分類>

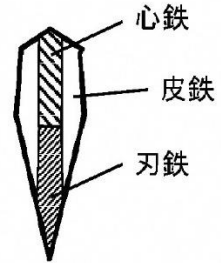
太刀：刃長2尺以上で、刃を( )にして( 腰に )形式のもの  
刀：刃長2尺以上で、刃を( )にして( 腰に )形式のもの

(2) 当館に展示されている日本刀の多くは、反りがある「彎刀(わんとう)」です。反りのない「直刀」が「突く、刺す」のに適しているのに対して、彎刀はどういう使い方に適しているのでしょうか? <パネルの解説文>

(3) 次の文は日本刀の作り方の説明です。解説パネルに書かれた説明を見て文中の空欄(ア)～(カ)にあてはまる語句を下の語群から選んで書きましょう。

- ① 刀の材料のうち炭素量が少なくてやわらかい(ア) \_\_\_\_\_ を、炭素量が多くてかたい(イ) \_\_\_\_\_ でくるむことで、折れず、曲がらず、よく切れる刀ができる。
- ② 何度も折り返しながら、交互に槌で叩いて(ウ) \_\_\_\_\_ することで、不純物をたたき出す。
- ③ その後刃金を取りつけてから、丹念に(エ) \_\_\_\_\_ をくりかえすことによって、(オ) \_\_\_\_\_ の模様や、美しい(カ) \_\_\_\_\_ があらわれる。

鍛錬      と      研ぎ      刃文      心金      皮金      地金



※ 心金=心鉄、皮金=皮鉄、刃金=刃鉄 です。  
 ※ ②の作業からできた慣用句が『相槌を打つ』です。  
 「はい、はい」「うん、うん」… 雰囲気伝わりますね。

(4) 作り方説明パネルの最後に「このような日本刀製作の優れた技術は、武器としての必要性がなくなった今日においても大切に受け継がれています。」と書かれています。なぜ受け継がれていくのでしょうか? 理由を考えてみましょう。

.....

.....

.....

.....

### 3 甲冑(鎧)

右の資料は展示されている「大鎧(おおよろい)」です。

次の①～⑤の2つの文のどちらかで、大鎧について正しく述べている方の( )内に○を記入しましょう。 <パネルの解説文>

- ① ( ) 着脱は簡単にできるよう背中で止めるだけでよい。  
 ( ) 誰かに手伝ってもらわないと着脱できないほど大変。
- ② ( ) 騎馬武者用に騎馬戦を想定して作られている。  
 ( ) 歩兵用に地上戦を想定して作られている。
- ③ ( ) 刀や槍での攻防に適している。  
 ( ) 弓矢での攻防に適している。
- ④ ( ) 見た目と違って軽く、動きやすい。  
 ( ) 大変重くて、動きにくい。
- ⑤ ( ) 主に平安時代～鎌倉時代に使われた  
 ( ) 主に戦国時代～江戸時代に使われた



